

授業科目名	政治学	担当教員	鈴木 寛
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1・2年第2クォーター		
講義内容	<p>授業の目標：法令などの諸規則、予算、税制などの概要の調べた方を理解するとともに、それらの制定や改正のプロセスとダイナミズムを理解する。</p> <p>授業形態：①政策形成のプロセスとダイナミズムを、国政・県政・市政のレベルを認識しながら概説する講義 ②政策提案力と政策実現力を獲得するためのグループワークと発表 による。</p> <p>授業計画：①政策の提案（現場関係者・シンクタンク・アカデミア）→政策の立案（行政府）→政策の制定（立法府・メディア・選挙）→政策の実施（行政府・現場関係者・コンサルタント・アカデミア・司法府）のそれぞれの概要を理解するための講義、②個々の学生が現行の文化芸術振興政策（文化芸術に関する初等中等高等教育政策、著作権政策を含む）の概要と課題を探究するための個人ワーク ③文化芸術政策についての具体的政策の提案（様々な関係者への効果の提示も含む）と様々な関係者への働きかけの行動プランについてのグループワーク ④政策案と実現プランについて、学生によるプレゼンテーションと教員からの講評 等によって構成する。</p>		
到達目標	<p>① 学生が、政策や政治に関するニュース・リリースを理解できるようになる。</p> <p>② 学生が、国や都道府県や市町村が定める法律・政令・省令・規則・条例や予算の概要について理解できるようになる。（省庁や県庁・市役所等の HP の参照の仕方を含む）</p> <p>③ 学生が、政策が現場にどのような具体的な影響を与えるのかを理解できるようになり、現場での諸問題を解決する政策を提案できるようになる。</p> <p>④ 学生が、政策の立案・制定に関与している多様な関係者の行動パターンを理解し、それぞれの関係者への説明・説得・交渉の方法を理解できるようになる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義：政策形成過程の概要（プレイヤー、プロセス） 政策の提案・要望</li> <li>2 講義：政策の立案</li> <li>3 講義：政策の制定</li> <li>4 講義：政策の実施</li> <li>5 個人ワーク：文化芸術政策の概要の理解</li> <li>6 個人ワーク：文化芸術政策の課題の発見</li> <li>7 グループワーク：文化芸術に関する具体的政策案の考案</li> <li>8 グループワーク：その政策案を実現するための行動プランの考案</li> <li>9 発表と講評：政策案と実現プランの発表</li> <li>10 発表と講評：政策案と実現プランの発表</li> <li>11 発表と講評：政策案と実現プランの発表</li> <li>12 レポート作成：政策案と実現プランの提案</li> </ol>		
事前・事後学習	<p>教育、舞台芸術、芸術祭、街づくり、地域おこしなどに関し、過去に自分が経験した、法律や予算制度上の不便や不満について、まとめておくこと。授業内で終了できなかったレポートについては事後に書き上げ・提出すること</p>		
テキスト	<p>平田オリザ「新しい広場をつくる」岩波書店 2013年10月</p> <p>平田オリザ「芸術立国論」集英社 2001年10月</p>		

参考文献	鈴木寛、城山英明、細野助博「中央省庁の政策形成過程」中央大学出版部 1999年1月 飯尾潤「日本の統治構造」中央公論新社 2007年7月 鈴木寛「ドラえもん社会ワールド 政治のしくみ」小学館 2015年8月
成績評価の基準	出席の回数、グループワークへの積極的貢献、発表内容、提出レポートをそれぞれ同程度の割合で勘案し、その総合で評価する
履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	該当しない。
備考欄	